



# 「オシャラクブナの里 創造計画」 ～学校ビオトープから地域振興～

栃木県立那須拓陽高等学校



↓ 滝岡保護区のミヤコタナゴ

## ○活動のテーマ

農業の発展に伴って生息数を減らしていき、絶滅寸前の「ミヤコタナゴ」。  
ミヤコタナゴが住める環境を再生して生息地を増やし、生物多様性の保全を図る。地域ぐるみで、人と自然が共生する那須地域を作る。

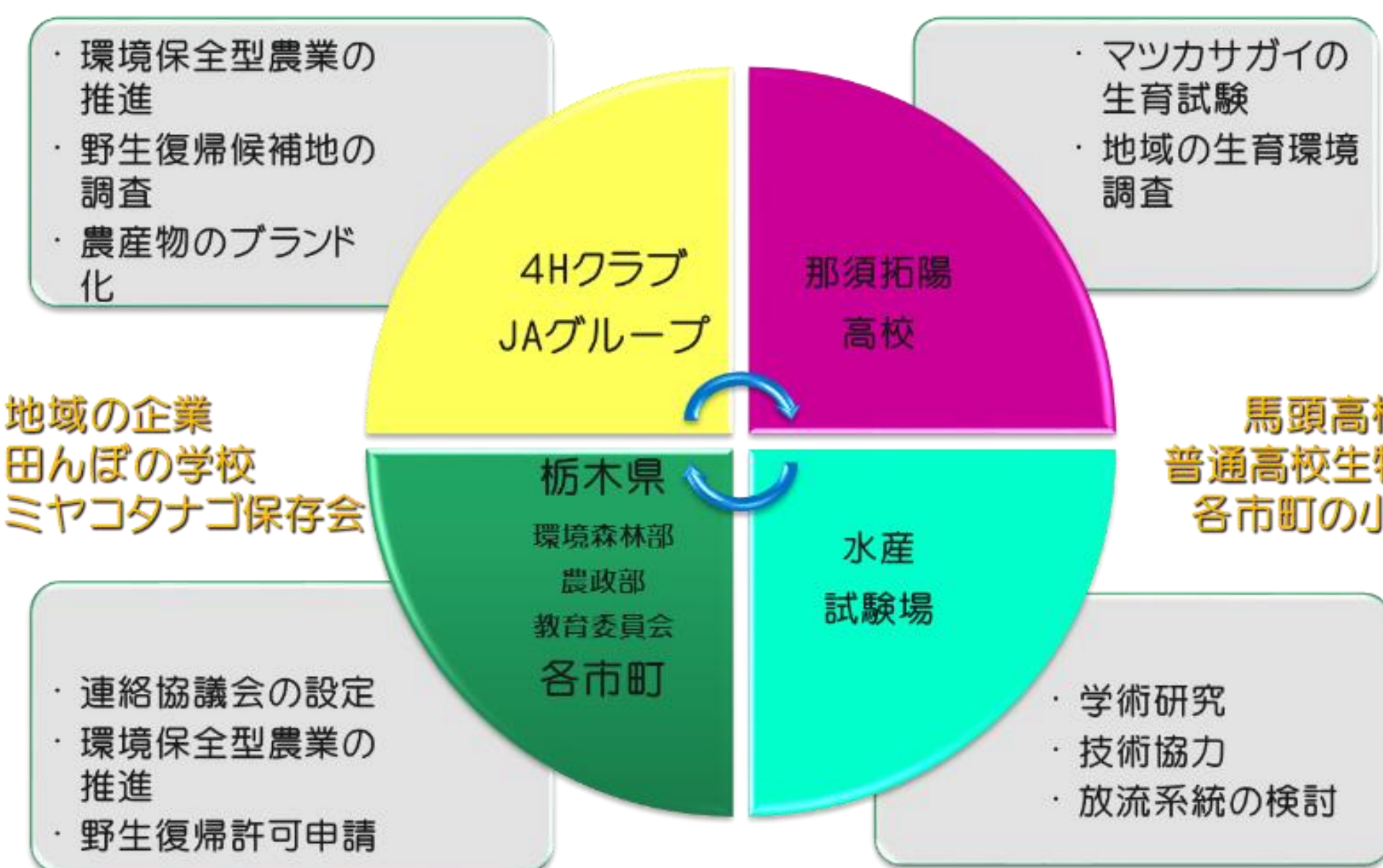
## ○活動のねらい

大山農場で環境保全型農業を実践し、環境悪化の要因とされてきた「農業」と、これからの「環境」との共生を正しく理解できる人間になる。将来、就農したときに環境の大切さを理解している農業者となり、持続可能な地域農業を築いていく。

天然記念物であるミヤコタナゴの以前の生息地などを再生し、保護区以外の生息地を増やしていく。地域で環境保全型農業や冬期湛水の稲作を広げ、栃木県那須地区を「オシャラクブナの里」としてブランド化し、地元のJAなどと協力しながら農業所得の向上を目指す。ミヤコタナゴが生息できる環境を作るまでの課程を、農業高校である那須拓陽高校から発信していく。



「オシャラクブナ」とは「ミヤコタナゴ」の方言で、「おしゃれなフナ」(栃木県北部)



○那須地区の産業分布



○以前のミヤコタナゴ生息地(アンケート結果)

## ○連携機関と役割(イメージ)

## ○校内ビオトープでの活動

### 1. 校内のビオトープ整備(平成23年より継続)

日本三大疏水の一つである那須疏水の水を引き込み、ビオトープ内を通過した後、特別栽培水田で利用している。有機物は水田に流れ込み、肥料となる設計になっている。水田は、冬期湛水として生物多様性の保全を図る。

取水した水は、すべて地下浸透するため、周囲の生態系に影響を与えない。

### 2. ミヤコタナゴ・二枚貝のアンケート調査(平成28年6月)

アンケートの結果、ミヤコタナゴは比較的人が多く住む地域の小さな川や農業用水路に生息していたことがわかった。湧水に続く小川、手入れの必要な農業用水路と、以前の農業生産活動と密接に関係していたことが確認された。

### 3. マツカサガイの生育試験(平成28年12月より継続)

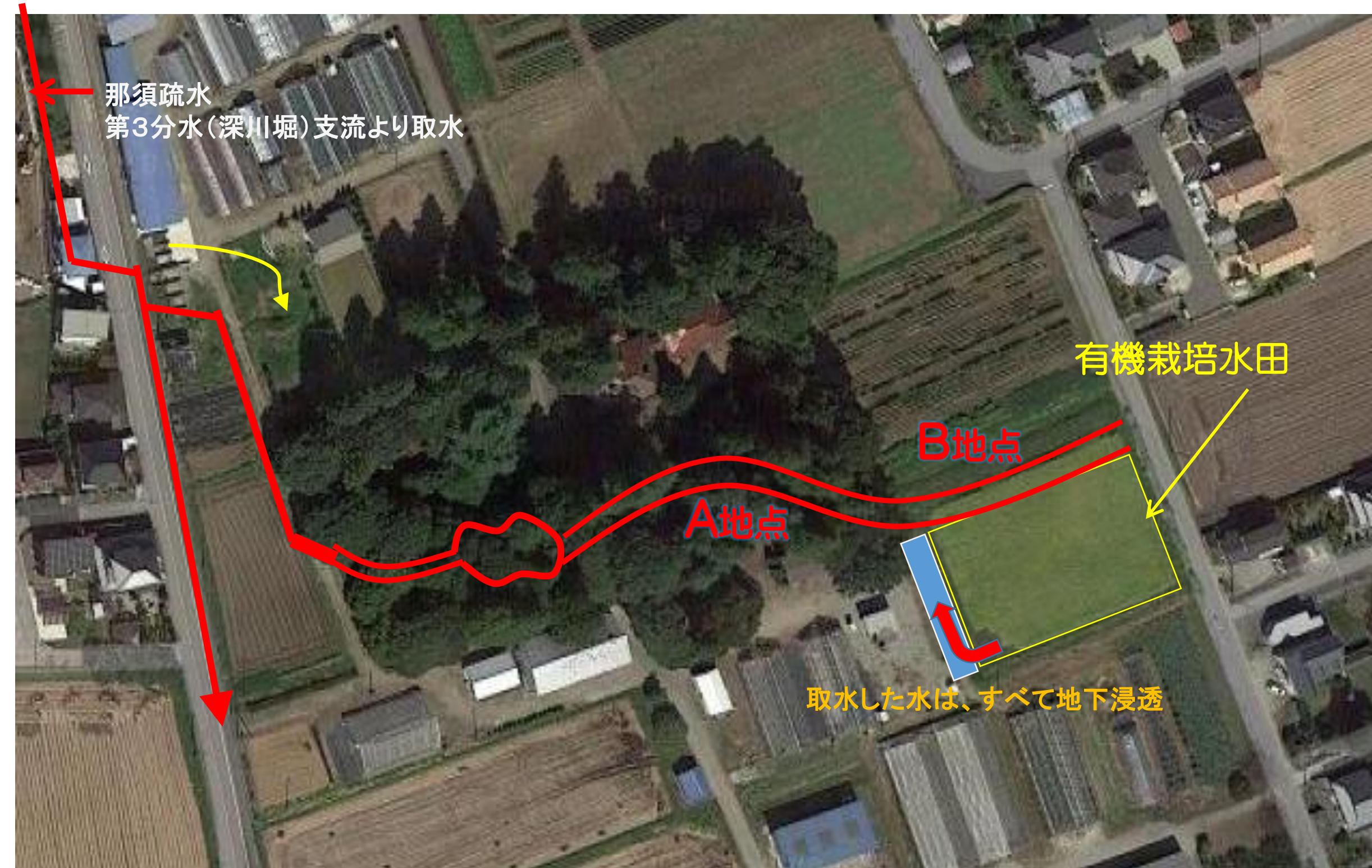
現地調査により見つかったマツカサガイの生息地で(土地所有者の許可を得て)採集し、ビオトープ内の水路で生育試験を行っている。

A地点には平成28年12月18日に36個体、B地点には平成29年4月22日に24個体を放流し、それぞれ平均値を比較した。

**A地点**(流れがあり、川底は砂利) **B地点**(流れはほとんどなく、川底は泥)



↓ 拓陽高校大山農場(Google map)



## 結果

4月から7月の増加量は、A地点で縦+0.2mm横+0.3mm、B地点で縦+1.3mm横+1.8mmとB地点の方の増加量が多かった。これは、流れが遅く日当たりの良いB地点の方が、貝のエサとなるケイソウ類が多く繁殖しているためではないかと考えられる。通常、流れが遅い場所は、貝の上に土が滞積してしまうため、生息場所にはならないが、今回の実験では竹の容器を使用したため、土が滞積せずマツカサガイが生育できたのではないかと考えられた。

場所	貝の長さ	H28 12月18	H29 4月22日	H29 7月31日	
A地点	縦	21.5	22.4	+0.9	22.6
	横	36.1	36.3	+0.2	36.6
B地点	縦	(平均値)	22.8		24.1
	横	(mm)	37.5		39.3

## ○今後の活動

「オシャラクブナの里創造計画」は始まったばかりである。自分たちの活動を広くアピールしていきたい。また、自然保護を訴えるだけでは持続的な活動はできないと考える。将来は、那須地区で今以上に環境保全型農業を広め、農産物が安心安全なものであることを「オシャラクブナの里」ブランドとして確立していきたい。それで農業所得が向上すれば、若い農業者も増えてくるのではないかと。

校内での生育試験は、焦らずに確実にやっていきたい。かつて、先輩たちが5年をかけてビオトープに水を引いたように、自分たちが卒業するまでに結果が出なくても、ミヤコタナゴ放流までのステップとして活動を続けたい。

